

(7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

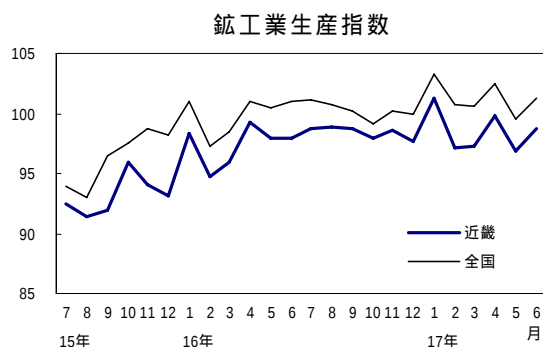
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 5 月）	今回（平成 17 年 8 月）	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動きがみられる	↑
住宅建設	おおむね横ばい	増加	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は、蒸気タービン、ボイラー部品などの生産が入ったことから増加している。化学は、前期に春物の化粧品の新製品や合成性洗剤の生産が増加したことの反動で減少している。電気機械は、需要期に向けたエアコンの生産などが増加している。食料品・たばこは、酒類などが減少し2四半期ぶりに減少している。電子部品・デバイス、パソコンなどに使用されるアクティブ型液晶素子（大型）などが増加したため、2四半期連続で増加している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成17年6月の近畿は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
一般機械	15.0	0.2	4.4	3.9	▲1.2
化学	12.8	3.4	▲7.6	▲4.8	▲4.1
電気機械	10.1	▲5.0	6.0	6.0	13.0
食料品・たばこ	8.1	3.9	▲1.1	▲1.2	▲15.2
電子部品・デバイス	7.9	4.5	0.6	▲3.4	▲2.7
鉱工業	100.0	0.5	▲0.1	0.5	1.8

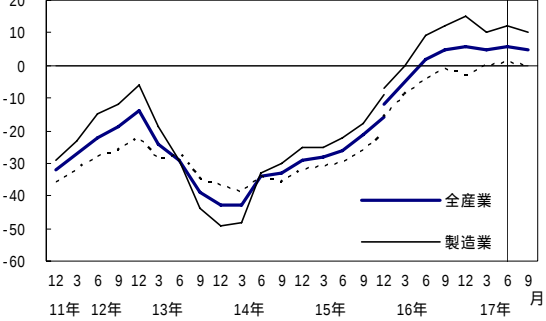
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 4～6月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなり、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

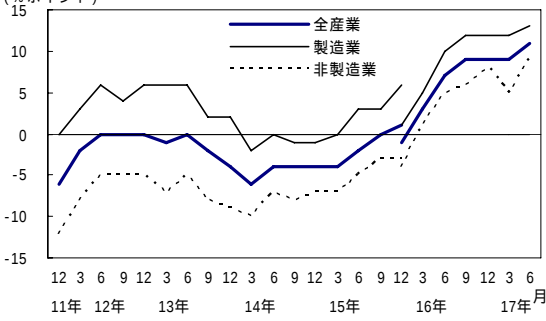
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



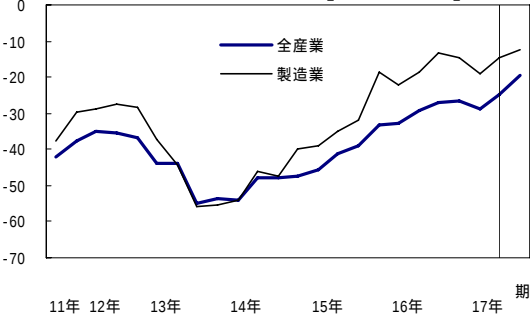
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年9月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月)[企業動向関連 (現状)]

「夏本番を迎え、メーカー各社から新商品売り込みのためのパンフレット等の印刷受注が増えている。個人客の伸びがないことから、全体としては変化はない(コピーサービス業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

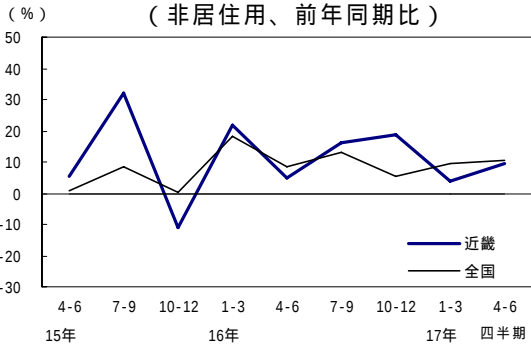
(3) 17年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度見込
全産業	2.9(▲3.6)	6.3(2.6)
製造業	5.3(▲4.5)	11.3(3.5)
非製造業	1.0(▲2.9)	2.2(1.8)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

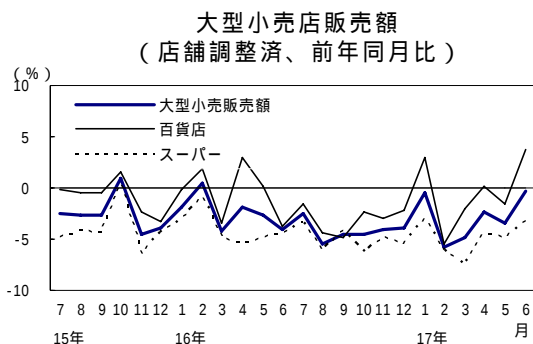
百貨店は、4月は旅行用品等の身の回り品や宝石・貴金属、スポーツ用品等が好調に推移したことから前年を上回った。5月は前年に比べ気温が低めだったことから、衣料品が振るわなかった他、家具・家電・家庭用品なども振るわず、前年を下回った。6月は、一部店舗の閉店セール、クールビズ効果及び気温が高めに推移し、天候に恵まれたことなどから衣料品、その他商品、身の回り品等が好調に推移した。四半期でみても閉店セールの効果などにより、13期ぶりに前年を上回った。なお、近畿百貨店協会によると、大阪地区の7月の売上高は、前年同月比で1.8%増となっている。

スーパーでは、6月はクールビズや父の日の効果により紳士服・洋品に動きがあったものの、四半期を通じて、主力となる飲食料品が米等の価格低下、水産品等の不振から振るわなかったため、全体としては前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「単価にはまだまだ厳しいものがあるが、来客数は確実に増えている。また、冷やかし客も含めて興味を持って商品を見ており、慎重ではあるが、購買意欲が感じられる(一般小売店[時計])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

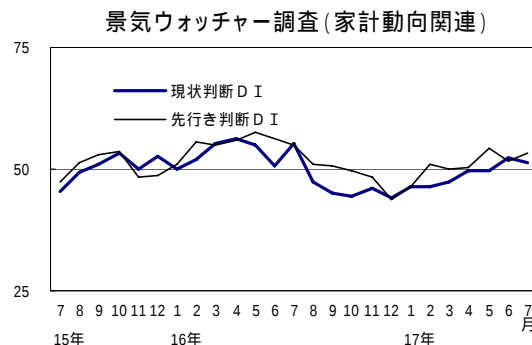
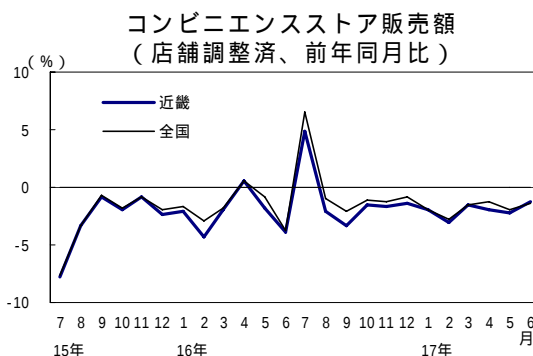
(前年同期比、%)



	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月
大型小売店	▲4.0	▲4.1	▲3.6	▲2.0
百貨店	▲3.3	▲2.5	▲1.3	0.8
スーパー	▲4.6	▲5.5	▲5.4	▲4.2
コンビニ	▲0.2	▲1.5	▲2.1	▲1.7
景気ウォッチャー	49.3	44.8	46.7	50.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

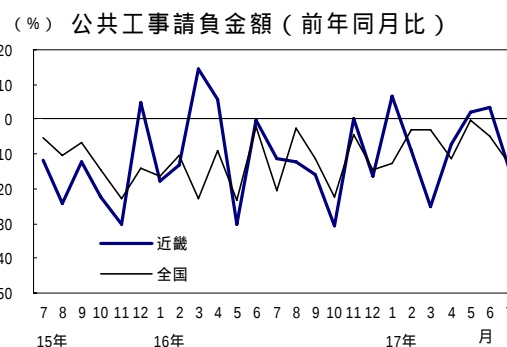
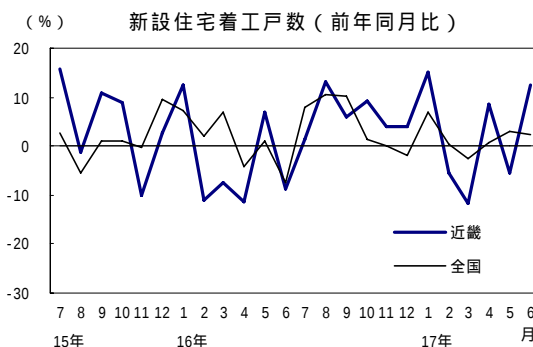
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったが、貸家、分譲及び給与が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計でみると前年度を下回っている。

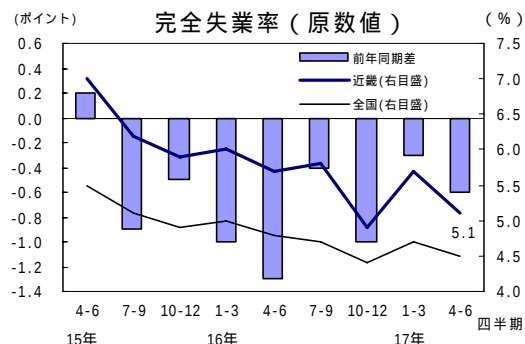
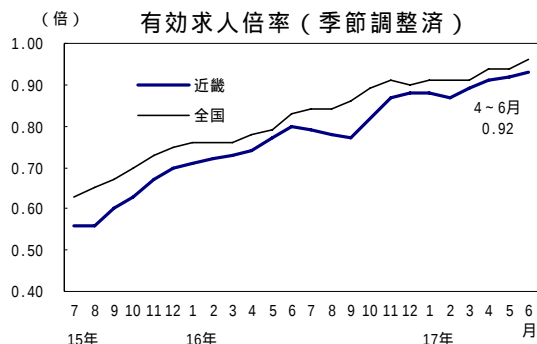


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

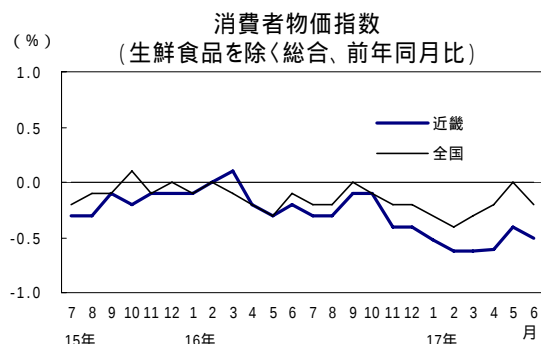
「製造業からの求人が増加傾向にあるほか、従来から好調な電機機械器具、電子部品に加えて、金属製品、一般機械器具製造業の事業所からの求人も出始めた。さらに、請負では20人以上の求人が再び出てきている (職業安定所)」など、「やや良くなる」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は横ばいとなっているが、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月	17年7月
倒産件数	840	815	751	802	285
(前年比)	▲6.6	▲9.5	▲18.7	▲3.0	▲5.6
負債総額	3,796	6,128	6,186	4,086	870
(前年比)	▲50.3	▲3.7	1.9	46.0	10.7



○ 景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・大阪市内のテナントビルの入居率が上昇しているほか、テナントビル建築業も売上が増加している (金融業)

<先行き>

- ・大手電機メーカーの姫路工場でフラットパネル・ディスプレイ量産工場の建設が予定されるなど、周辺地域における工場の新設計画があり、地域の雇用の増加が期待される。また、企業の設備投資が拡大傾向にあることから、今後も業況の改善が続く (職業安定所)

